

# 山梨ライトハウス

第82号

発行/社会福祉法人 山梨ライトハウス 〒400-0064 甲府市下飯田2-10-1

TEL/055-222-3502 FAX/055-233-0124 URL <http://yamanashi-lighthouse.or.jp/>



山梨県盲人福祉センター（点字図書館）  
 電話/055-222-3502・223-1113（貸出専用）  
 青い鳥ホーム 電話/055-252-8994  
 青い鳥成人寮 電話/055-224-5060  
 青い鳥支援センター 電話/055-221-1260  
 青い鳥老人ホーム 電話/0553-26-6631  
 青い鳥ケアホーム 電話/055-235-5566

社会福祉法人 山梨ライトハウス



山梨ライトハウスの理念は  
 「<sup>あす</sup>視覚障害者の未来を照らす  
<sup>みちしるべ</sup>光の道標となること」です。

## CONTENTS

巻頭言……………	1	今、福祉は…	7
白い杖愛護運動月間…	2・3	お知らせ……………	8
ライトハウスニュース…	4・5		
福祉祭……………	6		

# あれから四十年

盲人福祉センター

岡田千代子

昨年十一月、山梨県立美術館が、ジャン・フランソワ・ミレーの油彩画《角笛を吹く牛飼い》を購入したと報じられました。一九七八年の開館から四十年。県内外から多くの来館者を迎え、「ミレーの美術館」として親しまれています。

山梨ライトハウスは、美術館の開館間もない頃から「手でみるミレー」という取り組みに図版の開発や点訳シート作成等を通して協力してきました。

美術館のエントランスから少し見上げると《種をまく人》《落ち穂拾い、夏》《眠れるお針子》《ポーリーヌ・V・オノの肖像》がレイアウトされた特大ポスターの掲示があります。それを正面に見ながら二階に上がると、右側に『手でみるミレー』というコーナーがあります。ミレーの《種をまく人》と《落ち穂拾い、夏》の図版（鑑賞用補助教材）が点字とともに用意されています。一つは簡易版で、主に絵の輪郭や構図を知ってもらえるように。もう一つは詳細版で、人物の様子や筆致などを詳しく触察してもらえるように工夫されています。

今では、点訳や音訳と同じように、様々な配慮のもとで、平面的な絵画作品を二-

五次元のレリーフの絵画にする立体の翻訳ともいえる試みがあるようです。こうした取り組みは、山梨大学、山梨県立大学、山梨県立美術館共催で開催された平成三十年度文化庁の「大学を活用した文化芸術推進事業」―手で見るプロジェクト二〇一八―にも継承されています。

さて、美術館での新収蔵の朗報から、開館当時の一九七八年に歴史を遡ると、大きな転換期でもありました。道路交通法の改正を機に盲導犬の保護条例が規定され、法的に盲導犬の存在が認められた年でした。また、車両の一時停止や徐行の義務により、道路通行上も保護を受けることができるようになりました。さらに、運輸省通達により、視覚障がい者が盲導犬と一緒にバスに乗る際の規制も緩和されました。綾小路きみまろさんではありませんが、「あれから四十年」。現在では、盲導犬をはじめとする補助犬と一緒に生活する人たちの社会進出と自立を促進する身体障害者補助犬法が定められています。

「手でみるミレー」の取り組み、盲導犬の歴史と補助犬との生活、視覚障がいの方皆さんの美術鑑賞など、ノーマライゼー

ションの理念実現の確かな一歩となっています。

開館四十周年を迎えた山梨県立美術館の歩調と共に、山梨ライトハウスは、利用者の情報提供施設として関係機関と連携・協力しながら、誰もが様々な情報を楽しむことができる社会を目指していきたいと思えます。



「手で見るプロジェクト2018」に備えて解説の練習をする学生ボランティア

第64回白い杖愛護運動月間 平成30年11月1日～30日

# 白い杖・盲導犬キャンペーン 白い杖福祉の集い

第64回白い杖愛護運動(山梨県・山梨県教育委員会・山梨ライトハウス主催)を11月1日の「白い杖・盲導犬キャンペーン」を皮切りに展開しました。11月4日には、山梨県立盲学校体育館を会場に「白い杖福祉の集い」を開催しました。式典では、奉仕者知事表彰、白い杖愛護作文・生活体験文受賞者の表彰を行い、最優秀作文の朗読が披露されました。



知事表彰を受賞された青い鳥奉仕団員



知事表彰を受ける青い鳥奉仕団員



山梨県障害者福祉協会竹内理事長あいさつ



中学校の部受賞者



小学校の部受賞者



高等学校の部  
受賞者



生活体験文(一般の部)最優秀賞の朗読



生活体験文  
(一般の部)受賞者



式典が始まるのを待つ受賞者



甲府駅前にて趣意書の配布



通行人へ趣意書の配布



平成30年度 趣意書



富士吉田市支協、ダルマ会、点訳サークルしらかばのメンバーによる富士山駅でのキャンペーン  
セレモニー



富士吉田市イツモア赤坂店で趣意書を配布



白い杖・盲導犬キャンペーン 甲府駅にて

白い杖愛護作文・生活体験文合わせて287編の応募がありました。今年度は体験を通してそこから感じたこと、考えたことを綴った作品が多く、共生社会がますます広がっていくことを期待します。

# もうがっこうはたのしいよ

山梨県立盲学校小学部一年 星野 春

ぼくが、はじめてもうがっこうにきたのは、ようちぶでした。

さいしよは、おにいちゃんとおなじしよがっこうにくためのじゅんびをするから、もうがっこうのようちぶにはいりました。しゅういっかいのようちぶがすぐたのしくて、まいにちもうがっこうにいきたくまりました。ぼくは、おとうさんとおかあさんに

「もうがっこうしよがくぶにいきたい。」

といきました。そして、にゅうがくをきめました。

しよがくぶににゅうがくしてからは、じがじようずにかけるようになったり、ずこのじかんにたくさんえをかいたりしました。じがかけるようになったから、こくごの「くちばし」や「おむすびころりん」のぶんもすらすらよめるようになった、せんせいにくちばんほめられました。せんせいに、いっばいおしえてもらいました。とけいもよめるようになったり、じぶん

のくつひものちよちよむすびもできるようになったりしました。とてもうれしかったです。

もうがっこうしよがくぶににゅうがくして、いちばんすぐかったのは、「せいかつたいけんがくしゅう」です。せんせいやともだちとかいものをして、じぶんたちで、ゆうごはんをつくってたべました。がっこうのおおきなおふろに、ともだちとはいって、がっこうにとまりました。がっこうにとまるのはすこしふあんだったけど、ちゃんととまることができました。

もうがっこうは、せんせいがいろいろおしえてくれて、たくさんほめてくれます。ともだちもできました。ぼくは、そんなもうがっこうがとてもたのしいです。ぼくは、もうがっこうのしよがくぶににゅうがくしてよかったです。

# モノは使いよう

甲府市 吉村 圭子

目で見るというのは、簡単ではあるけれど生活にとっても密着しているのです。そこに障害があると実には大変である。大変の大安売りくらい大変である。

ただ、今はその大変さを軽減してくれるモノが沢山ある。その最たるものは「アイパッド」。拡大鏡として新聞を眺め、読書支援をする用具として音声図書を聞き、巷にあふれる文字―それは時に郵便物であり、食品の裏にいつも小さくついている作り方や解凍の方法、賞味期限であり、子供の学校からのお便りであり―を音声で読んでくれるありがたい機器として等、その用途は枚挙にいとまがない。当初は、「これさえあれば全て解決」くらいの勢いで絶賛したものである。

ところが、である。この大きなアイパッドは、小回りが利かない。例えば、スーパーで値段や内容を確認するには少し不向きにできている。何しろ片手、時には両手がふさがってしまう。さっと取り

出すことも不得手である。スィッチなどのカードの使えない駅で切符を買う時に、乗車賃も、券売機の画面も判然としないので、ついまたもたす。外見から障害を判断してもらえない私は「ただのろまなおばさん」と化し、後ろからの舌打ちにびくびくしながら券売機と格闘する。しゃれたトイレに入ると、洗浄ボタンがあまりに沢山並んでいるので、どれが「流す」ボタンなのか全く見えない。へたに押して音楽ならまだしも「お尻洗浄」だったら最悪なので、必要以上に長居しなければならぬ。こんな場合も、鞆からアイパッドを取り出して、カメラを起動させてなどとやっている暇はない。つまりアイパッドという時代の最先端をいく機器だけでは、すべての大変さや不便を解消しきれないと感じたのである。

さて、ではどうするか？「誰かに聞く」と、言いたいところだが、みんな忙しいし、トイレの個室に「誰か」はいないので、現在は携帯用拡大鏡

を主に利用している。単眼鏡も有効だ。首に下げ、あるいは鞆にぶら下げてさつとかざして、値段や画面を見る。駅やトイレ、公共の場所では、ひっそりと何気に佇んでいる点字を、指で読んで対応する。東京のトイレで「流す」を読んだ時はまさに感動。現在はまだまだできないが、サクサク点字の本を読めるなら、かなりかつこいいに違いない。

そして、はたと気づく。障害があると大変で、できないことばかりの感があるが、困りごとや自分のしたい事を、やみくもに嘆いたり、あきらめなくても、情報を集め、使えるモノを増やし、それを駆使すれば、あるいは場面に応じて使うモノを選べば、案外道はありそうだと。すると、ちよつとだけ大変さが面白さに変化した。そして思う。できなかつた事ができるようになるというのは、どんな事であれ、自分を元気にしてくれるんだなど。

# ライトハウスニュース

## NEWS NEWS NEWS

### ●盲人福祉センター

#### 移動ライトハウスin甲州市

十一月二十三日勤労感謝の日に甲州市役所を会場に開催されました甲州市社会福祉協議会主催「こやしゅう福祉まつり」へ参加しました。市役所二階では、視覚障害体験コーナーとして、白杖、プレクストーク、音声時計などの視覚障害者用具の体験や、点字絵本、視覚障害疑似体験メガネなどを展示し、視覚障害者はもちろん、福祉関係者や親子連れなど多くの方々に、目の不自由さ、ライトハウスについて知って頂く良い機会となりました。このほかにも、点字ミニ教室、手話体験、高齢者疑似体験などがあり、なかでも盲導犬による歩行体験は、小・中学生にとっても人気でした。

屋外の芝生広場「塩（えん）むすび」では、多くの授産施設と共にテントで、青い鳥成人寮利用者の陶芸作品などの販売を行い大盛況でした。また、ステージでは、子どもたちのお遊戯、和太鼓演奏などの発表、防災・災害体験コーナーや子どもの遊び場などもあり、秋晴れのもとにぎわっていました。

昨年度からこの行事に参加させて頂き、今年度は午後までと時間が延長されこともあり、来場者も多く、地元の視覚障害者の皆様をはじめ、多くの皆様方に足をお運び頂きました。ありがとうございました。



音声電波腕時計体験



塩むすび広場にて陶芸作品などを販売



盲導犬による歩行体験



方角を教えてくれる音声方位磁石体験

### ●青い鳥老人ホーム

#### 師走恒例

師走を迎える中、利用者の皆さんは大きな病気も無く元気に過ごされています。十二月二十日には、『年忘れ会』を開催。トゥーレモンド・エクスペッションの皆さんによるクリスマスコンサートが行われました。フルートやチェロなどの演奏に合わせて各々手拍子を取ったり、歌ったりと楽しいひとときを過ごしました。途中、『ヨイトマケの唄』が披露されると、迫力のある、気持ちの入った歌声に、利用者の中には、涙を浮かべて感動している姿も見られました。アンコールが終わると、割れんばかりの拍手が沸き起こり大盛況でした。十二月二十八日には、『餅つき』を玄関前で行い、希望者が職員と一緒になり、笑顔で感想を話していただきました。平成三十一年も利用者の皆さんが元気で健康な一年となります。職員全員で支援します。



トゥーレモンド・エクスペッションの演奏



施設から全員に衣類のプレゼント

### ●青い鳥支援センター

#### 好評・クリスマス会

十二月八日、暖かい冬の日に、青い鳥支援センターで行う平成最後のクリスマス会を行いました。毎年恒例のカラオケ大会を中心に、今年初のクリスマスランチを作ったりゲームをしたりと楽しい一日を過ごしました。スタッフ合わせ三十五名の大人数ですが、笑顔いっぱい笑い合っていると家族のような温かい気持ちになります。支援センターは長く勤めているスタッフが多い為、個々の利用者様の性格がよくわかります。なので、好きな食べ物や好きな歌、会話のやり取りが弾むのです。「北島三郎うたつて〜！」「カレールーは多めにね」「そろそろ薬の時間だよ」「○○さんは、カフェインがアレルギーだよ。気を付けましょう」等、普段から利用者さんの情報を共有している事で、意思疎通の大切さや楽しさをセンターの活動を通して毎回感じさせて頂いています。年賀状をくださる皆様にもこの場を借りて御礼をさせていただきます。スタッフ全員で読んでいますよ。ありがとうございます。Nさん、今年がキャッツの変装でしたか(笑)？最高でした！

来年度は年号も変わるし変化の二年ですね。支援センターも、良いところは変わらず、でも成長できるところは成長できるような毎日を大切に過ごしていきたいと思っております。

今年もよろしくお願いたします。



みんなで写真撮影!!

●青い鳥成人寮

畑の一年

成人寮の畑は三年前に大泉から甲斐市に場所を移し、畑作業を続けています。山間にある畑は甲府盆地を見下ろせ、正面には富士山が眺められるのどかな場所にあります。

畑の一年の流れは、三月―もう少しで春が来るかなーと言う時期に、近くの牧場の堆肥を軽トラックいっぱい積み、トラクターで耕し土づくりをします。

四月―じゃがいもの種芋を植えます。職員と一緒に種芋を切つて灰をつけて、みんなで二生懸命植えます。七月―丹精込めて作ったじゃがいもの収穫です。

八月―今度は大根の種と白菜の苗植えます。大根は小さいタネを一粒ずつ穴に入れ、白菜の種もポットに入れて苗をつくりまします。十一月―寒くなってきた頃大根は大きくなり、収穫をします。

利用者さんにとっては収穫が一番の楽しみです。じゃがいもは土を掘り、大きい芋を見つけると嬉しそうに収穫しています。大根も二本一本丁寧に力強く抜いて、時には勢いでしりもちをつく人もいます(笑)。大根もきれいに抜けると我慢げに見せてくれます。今年収穫したものは成人寮の給食でおいしくいただいています。今年

は野沢菜を育て、漬物も作りみんなで食べました。

大根と白菜は毎年小瀬で行われるふれあいマーケットで販売もしています。

利用者さんも高齢化に伴い以前より畑作業が出来なくなっています。少しでも土と触れ合い、成長していく楽しみ、収穫する楽しみ、食べる楽しみを味わってほしいと思います。



とったど〜



野沢菜漬けました。



種芋をよいしょと!!

●青い鳥ケアホーム

山梨県立美術館創立四十周年記念イベント

十二月九日、「お茶会ワークショップ」へ、いつも成人寮の陶芸活動に参加している方々がのんびり散歩しながら出掛けました。抹茶茶碗やコップ、お菓子やハーブティーは県内の様々な障害福祉サービス事業所の作品を...というコンセプトでした。また、お茶室はワークショップ参加者による作品で彩られ、ほのぼのとできる時間と空間でした。

十二月十五日には「手で見る展覧会」に参加し、彫刻の数々や山梨県立盲学校の児童が製作した楽器を、手と耳で鑑賞してきました。ミロのヴィーナスをモチーフにした彫刻二体は、片方は石膏、片方は特殊な柔らかい素材で皮膚が作られ髪の毛もありました。二体は全く同じ大きさと形なのですが、触り心地が異なるので、サイズや顔の表情が違うように感じられたそうです。視覚に障害をもつ方でも楽しめる展覧会でした。

どちらのイベントも、不自由なところを強みに変えたり他の感覚で補ったりする力に着目した、とてもよい企画でした。誰もが持つその力を信じて、私たちも日々の支援に繋げていきたいと思います。



クッキーとプチケーキ



「美味しゅうございます」



触って、比べて

●青い鳥ホーム

第六回朝日地区健康と福祉のつどい

十月二十日(土)「第六回朝日地区健康と福祉のつどい」が朝日小学校の体育館で行われました。主催は朝日地区社会福祉協議会様です。地域の方々(約二五〇名参加)と青い鳥ホームのみなさんをいつも招待していただき、一緒に楽しいひと時を過ごさせていただいています。

今回はハワイアンバンドのメンバーが懐メロや歌謡曲を演奏し、会場全体で合唱しました。次に雨宮さんの指導で座りながらできる健康体操です。認知症の予防にもなりそうな楽しく体を動かせる体操でした。司会の土橋さんは、青い鳥ホームの利用者の手をとって教えてくれました。朝日地区社協そして地域の皆様ありがとうございました。また十二月には、社協の中村会長はじめ皆様が青い鳥ホームへ慰問に来所してくださいました。



唱歌・懐メロの演奏に合わせて合唱



福祉祭でマッサージ奉仕



手を上に〜♪健康体操

# 2018福祉祭

山梨ライトハウスでは十一月四日(日)お天気が心配されましたが、開会式が始まる時間に合わせるかのように日差しが差し、今年も恒例の『福祉祭』を開催する事が出来ました。今年の『福祉祭』は来賓一般・利用者・職員含め二〇〇名程度の参加がありました。開会式では、毎年恒例となりました『甲府西幼稚園』年長児による太鼓の披露から始まり、萩原理事長の挨拶、各来賓のご紹介が行われました。ふれあい広場では各施設が一生懸命練習した出し物の発表会が行われました。山梨青い鳥奉仕団は『青い鳥奉仕団の歌』・青い鳥成人寮は『リズムダンス』・青い鳥ホームと青い鳥老人ホームは『合唱』。みなさん練習の成果が十分に発揮され、大変素晴らしい発表になっていました。「上手にできたね」との言葉やたくさんの方の暖かい拍手があつたことを覚えていきます。模擬店ではあんころ餅やほうとう、おでんや皮付きフライドポテト等が販売され、各模擬店の前は長い行列ができるほどの人気でした。ふれあい広場の点字教室や盲人囲碁教室、青い鳥ホームのマッサージ奉仕も賑わっていました。最後は待ちに待ったお楽しみ抽選会です。次々と抽選番号が読み上げられ、みなさんの笑顔が弾けます。豪華賞品がたくさんありました。残念ながら当選しなかった方は来年に期待ですね。

今年も多くのご関係者、地域住民の皆様にご参加、ご協力いただき『福祉祭』を盛大に終えることができました。各関係機関のみなさま、また来年も宜しくお願いたします。



園児のみなさん真剣です



青い鳥ホームの合唱



山梨青い鳥奉仕団の合唱さすがの美声です。



青い鳥成人寮リズムダンス



萩原理事長の挨拶



青い鳥ホームのマッサージ好評です



福祉祭たのしそうです



囲碁も熱戦が行われています



ほうとう鍋、力が入ります



当選番号が読み上げられます。当たった方おめでとう



青い鳥老人ホーム施設長のギターと共に合唱

## 川柳

(十一月のライトハウス川柳会から)  
浅川和多留 選

出窓打つ雪音寒き猫と寝る

井口 貞子

飼い牛と別れる時に涙ぐみ

加藤 隆

偉大なる太陽様に有難う

細川 一

竜電は進化問われた納め場所

高坂 康平

急ぎ足越えし戌年ふり返り

桑原 梅次

8Kでもうごまかしは効きません

埜村 和美

牡丹鍋食べて来年良い年に

標 照二

今は趣味昔は夜なべ針仕事

本間りょう

病む友の声聞きたさに受話器持つ

岡部 恵子

驕る人権威を笠に振りかざし

榊原佳美子

人情が山間の村温める

萩原 満治

## 第44回 全国視覚障害者情報提供施設大会 (岐阜大会)へ参加

平成三十年十月二十五日(木)～二十六日(金)岐阜市文化産業交流センター「じゅうろくプラザ」において行われました「全国視覚障害者情報提供施設大会(岐阜大会)」へ参加しました。「てんやく広場」誕生三十周年「サピエ」のさらなる充実と発展を目指して」をテーマに、全国から九十施設約二二〇人が集まりました。

一日目は、『情報提供サービスのさらなる充実と発展を目指して「てんやく広場」から「サピエ」までの三十年間の歩みとこれから』として、「サピエ」の誕生までの経緯や、三十年で会員数は、二二八施設・団体一万六千人余りと増え、図書館間の相互貸出数は十六倍、図書データダウンロード数は、サピエ誕生後の八年で二・三倍にまで増えたという報告がありました。夕方からは、ホテル会場を移し、来賓にエジプトのアレキサンドリア図書館の職員をお迎えして交流会が行われました。

二日目は、「サピエ図書館を軸とした、点字・公共・学校・大学図書館等の連携を考える」をテーマにシンポジウムが行われました。また、別の会場ではメーカー十六社による機器展示会で、最新の福祉機器を体験することが出来ました。

この大会を通して、日本も批准した「マ

ラケシュ条約」の下、サピエ利用者が視覚障害者だけでなく、「印刷物の判読が困難な人」も加えられことになり、サピエの重要さと共に、少しでも早く質の良い図書を仕上げることはならないということを感じた一日間でした。



研修会の様子



祝賀会(餅つきの披露)



福祉機器体験の様子

## 青い鳥奉仕団第一回合同研修会

山梨青い鳥奉仕団理事 跡部 秀子(音訳)

今年度第二回の点訳部と音訳部の合同研修会は、十月七日盲人福祉センター研修室で開催され、大勢の皆さんが参加されました。当日は、かつてライトハウスで活動されたこともある小林是綱先生を講師にお迎えし、「愛と真心」を言葉で伝えるー東北大震災を体験して」と題する講演会でした。

小林先生は、仙台駅で東日本大震災に遭い、避難生活も経験されました。そうした中で、先生は地元山梨の方々に働きかけ、被災地の人々を支援する活動を始めました。被災者が笛吹市で暮らせるように、仲間たちとさまざまな支援をされました。

また岩手県の大槌町立図書館の館長と出会い、「何か支援することがありますか。」と聞くと、「愛と真心が欲しい」と言われたそうです。それで、先生は自分のできることをしようと、散乱した図書館の地域資料のデジタル化という活動をする中で、大槌町との交わりを深めて行きました。

その資料を整理しているとき、画家中島千波の「山高の神代桜」(北杜市・実相寺にある桜の木)のリトグラフを見つけ、その修復のため

に奔走する中、作者の中島さんが大槌町に絵を寄贈して下さったということでした。さらに、神代桜の苗木を寄付して下さい方もあり、先生自ら運んだその桜の苗木は、大槌町に根付いて花を咲かせているそうです。

これらの活動について小林先生は、「自分はボランティアをしようと思っただけ、ボランティアではない。デジタル化も無償で行ったが、ボランティアではなく、私ができることをやっただけ。」と言います。しかしまた、「ボランティアは利益を求めないものだが、有償ボランティアもあつていいと考える。」とも話されました。

真心を持って人と接し、人との関係を大切にしながら行動の輪を広げていってほしい先生に興味深いお話に、参加者たちも引きこまれていました。



小林是綱先生



話聞き入る奉仕団員

## 県政功績者に 受賞されました

山梨県の2018年度の県政功績者に、山梨ライトハウス監事原野五郎様・山梨青い鳥奉仕団前理事長の岩下和子様を受賞されました。おめでとうございます。

原野様は、元県職員で福祉保健部長、県民室長、福祉保健部次長、市町村課長管財課長などを歴任されました。

岩下様は、山梨ライトハウス元評議員、山梨青い鳥奉仕団前理事長、元同副理事長、元同理事などを歴任されました。



原野 五郎 様



岩下 和子 様

## 平成30年度同行援 護従業者養成研修 を開催しました

平成30年9月30日(日)から10月2日(火)の一般課程、平成30年11月12日(月)と11月13日(火)の応用課程で、同行援護従業者養成研修を実施させて頂きました。

今年も多くの方が受講され、初日に比べて皆さんのレベルが徐々に上達していく様子を感じる事ができました。受講者の方々より、「視覚障がいの方が日常生活や外出支援時にどの様な気持ちなのか、何を必要としているのか知る事ができた。」「当事者の立場を経験でき、同行援護の重要性を確認できた。」など多くの感想を頂きました。

今回ご参加頂いた皆様のご活躍を期待すると共に、ご協力いただきました講師の方々には心より感謝しております。有難うございました。

## 山梨放送様から 点字カレンダーのご寄贈

日本テレビ小鳩文化事業団作成のカレンダー「点字版」300部がYBSラジオセンター長兼ラジオ編成業務部長 石川 治様そしてラジオライトハウス担当の塩沢未佳子アナウンサーから山梨ライトハウス萩原満治理事長に送られました。今回のテーマは「国定公園の四季」です。



石川ラジオセンター長(右)から萩原理事長へ点字カレンダー 国定公園の点字カレンダーが渡されました。



## 丹精込めて育てました

大輪の菊を咲かせて6年、今では100鉢以上を育てています。今年も見事な菊をライトハウスに届けて下さいました。咲き誇る約一ヶ月間各施設の玄関は華やかになりました。ありがとうございました。



青い鳥老人ホーム元施設長の小林 望 様

## 点訳奉仕員養成講習会が 修了しました

今年度は10名のみなさんが点訳奉仕員養成講習会を終えられました。今後の活躍を期待しております。

